

“The neo-Weberian state and the neodevelopmentalist strategies in Latin America : the case of Uruguay”

「中南米諸国における新ウェーバー主義国家及び新開発主義に基づく戦略:ウルグアイを事例として」

Conrado Ramos, Alejandro Milanesi

Abstract

本論文は、中南米諸国の文脈に着目することで行政に関する新ウェーバー主義の理論の発展に貢献することを試みる。ヨーロッパにおける大陸型諸国で確認されたこの行政改革のモデルは、経済発展に関する新開発主義のモデルに従ってきたいくつもの中南米諸国において、現存傾向にあることを我々は論じる。新ウェーバー主義の政治戦略は公的部門の現代化を推進し、その運営と調整に関する能力を向上させる。この戦略は経済成長と社会結束を主導する国家の中心的役割の再構築をねらいとする新開発主義の見解にとって機能的である。しかし、これらの国々の制度的欠陥又は明確な改革方針を提供することの難しさから、中南米諸国に植え付けられた公共管理モデルは「不完全な」新ウェーバー主義であるように思われる。我々は、拡大戦線 (the Frente Amplio) が実施してきた改革の文脈において、ウルグアイにおける公共管理モデルの概略を読み解くことで、上記の欠陥や難しさと、新ウェーバー主義との関連性を示す。

Points for practitioners

本論文は2つの重要な事項を明らかにする。第1に、公的部門改革の過程は通常、他のより広大な開発戦略と、政治的実現可能性の予測とに関連付けられている。これにより、政治家が取り得る選択肢がある程度説明可能である。第2に、公的部門改革の多くは複数の行政理論の組合せによる。これにより、公共部門の改革は非体系的、非一貫的、ひいては矛盾さえ孕むという危険があることが示される。